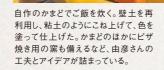
春は桜、夏にはホタル



仕事に一区切りがつき、広々とし た縁側で一息つく。古民家の持ち 主だった農家からは、代々使い続 けてきたという立派なたんすから、 中に収めた漆器まで、そのまま譲 り受けた。漆器は布で磨くとピカ ピカに。*現役、の食器として活躍 中だ。







菜をつかったランチなどがある。ランチは 2日前までに電話かメールで予約。将来 的にはシニア層がくつろげるカフェ「コレ シカ」も開設予定。

ちいさなたね 住所/伊都郡高野町東富貴197

https://www.wakavamagurashi.ip/how-to/support/

電話/0736-53-2078

メール:chiisanatane@satobito.net https://www.facebook.com/tiisanatane/

わかやまでの日々の暮らしとまちブラ日記



Monhiri Journas わかやまに恋した人々 Yeakayama



「育児や親子のふれあいって、どう

囲炉裏を囲む嘉積さん夫妻。農家から譲ってもらった古民家を1年がかりで改修した。床の張り替えから 煙突の配管まで、由彦さんが一人で手掛けた。「囲炉裏で焼くアユは絶品」と由香里さん。

と気楽でいいんじゃないかな。そ ハウと夢が詰まった空間だ。 こても難しく考えがちですが、もっ 32年間勤めた由香里さんのノウ の玩具が並ぶ。 んの選んだ絵本やぬくもり は話す。部屋の片隅には、 と嘉積由彦さん、 **嘉積由彦さん、由香里さん夫いまたいといいます。** して腕をふ ある

さなたね」がたたずむ。 **〜空間を提供する親子カフェ「ち** だ空気のもと、家族一緒にくつろげ 野町の富貴地区。豊かな自然と澄ん 弾けるような笑い声が響く。 ともる囲炉裏…。広々とした築 50年の古民家に、子どもたちの 日の当たる縁側に 00 以級の山々に囲まれた高 赤々と火の 。周囲を

ぎたころ。高齢の両親が住む大阪府

立ったのは、由彦さんが50歳を過

好きな田舎で」。そう思

を知り、何度も足を運ぶうちに、素

つらぎ町天野の住人の紹介で富貴 画で準備を進めた。最初に訪れたか から1時間圏内を条件に、5年計

朴な景観や飾らない地元の人柄が

はホタルも飛んでいる。そんな当た もって、新鮮な野菜や水の と由彦さん。20 いてくれる。そんな姿を見るのが たカフェは、親世 前のことの大切さが身に染みる 。そのかわり、星はきれいだし、 「ここの冬は本当に寒いし、夜は暗 楽しさにもすぐに気 由香里さんは目を 味にも敏



大阪から移住

夫婦の思いをカフェ

に託

7

古民家で親子の大

切な

時間

「ちいさなたね」とは、未来をになう子ど もたちのこと。カフェに来た子どもが、 自然のすばらしさや大切なものを見つ けてくれれば。そんな思いを込めた。



母屋と並ぶ納屋を再利用して、2階を 住居に改装中。

21 | nagomi